

# むかわへっぴ

むかわ町勢要覧2006 新町誕生記念

HOKKAIDO MUKAWA

## 人と自然が輝く清流と健康のまち むかわ町

### Message

01 合併をしてよかった。  
そう感じてもらえるような、まちづくりを。  
むかわ町長 山口憲造

03 あれも、これも、むかわ町の自慢です。

### むかわ町のあらまし

05 産業  
保健・福祉  
教育・文化  
生活環境  
まちづくり

### Special Interview

15 スピードスケート選手 田畑真紀さん  
私を常に支えてくれたのは、ふるさと。  
感謝の気持ちでいっぱいです。

17 むかわ町の将来像

19 むかわ町の基本データ  
むかわ町のあゆみ

母なる川を  
ゆるやかに  
つなぐ。

むかわ町は道央圏の南方に位置し、  
道都である札幌市や空の玄関である千歳市、海の玄関である苫小牧市にも近く、  
日高・十勝方面への交通の要衝にあります。  
面積は712.91平方キロメートルと胆振管内最大。  
東西および北部の三方は日高山脈系に囲まれ、南部は太平洋に面し、  
全国でも屈指の清流度を誇る一級河川鶴川が  
南北に縦走。海・山・川と多彩な自然環境に恵まれたまちです。



【町の花】ツツジ



【町の木】イチイ



【町の木】アカエゾマツ



【町の魚】柳葉魚(シシャモ)



### アクセス

[空路]…羽田空港(東京)から新千歳空港まで約90分、新千歳空港から車で約45分

[JR]…「札幌」駅から千歳線「苫小牧」駅まで特急約40分乗り換え、

「苫小牧」駅から日高本線「鶴川」駅まで約30分

[車]…札幌市内から「道央自動車道」を利用し約1時間20分

苫小牧市内から「日高規格幹線道路」で約40分

冊子タイトル「ムッカ・ベツ」について

鶴川の語源はアイヌ語の「ムッカ・ベツ」。海の上げ潮のために、  
河口が砂でふさがれる状態を表しています。むかわ町の名も、この  
豊かな川の名前に由来しています。

Webサイト <http://www10.plala.or.jp/mukawa/>  
携帯サイト <http://www10.plala.or.jp/mukawa/i/>



発行 / むかわ町  
発行日 / 平成18年11月  
制作 / 穂別誠和学園



この印刷物は環境に優しい  
植物性大豆インキを使用しています。

# 母なる川をいふお母さん。

日高山脈北部のトマム岳に源を発する長さ135キロの清流、鷓川。

サケやシシャモが遡上する「豊漁の川」として知られています。

古くから農業用水にも活用され、

流域は道内屈指の稲作地帯として発展。

現在は、およそ4千ヘクタールの豊かな水田を支えています。

私たちの暮らしに、はかりしれない恩恵をもたらしてくれる母なる川。

その鷓川にはぐくまれたのが、鷓川町と穂別町。

明治45年に分村して以来、

それぞれの個性と文化を培ってきましたが、

94年の時を経て、再びひとつのまちとして合併。

平成18年、新しい「むかわ町」が誕生しました。

町の名前や行政の区分は、時代によって変わるとしても、

私たちのふるさとが、

この鷓川であることに違いはありません。

小さな川が合流しながら、いつしか雄大な大河となり、

人々の暮らしを豊かに支えてくれるように、

新しいむかわ町も、ひとつの流れを志向しながら、

ゆるやかに未来へと進んでいきます。



平成18年3月27日、  
鷓川町と穂別町が合併し、  
新生「むかわ町」が誕生しました。





## 【町章】

全体をむかわ町の「ム」の字で形どった新しい町章です。左側の緑は豊かな森と豊富な産物を、右側の青い線は清流と海、澄みきった青空をシンボライズ。中央の赤の円は住民の健康と融和、みなぎる活力を意味し、太い曲線は力強さと自然の奥深さ、自然と住民が共生する姿を表しています。

**合併をしてよかった。  
そう感じてもらえるような、  
まちづくりを。**



むかわ町長  
山口 憲造

明治45年に分村した鶯川町と穂別町が、94年を経て再びひとつのまちとして歩き出すことになりました。これまで両町とも、それぞれの歴史や文化を築き上げてきましたが、今回の合併によりいいところは伸ばし、見直すべきところは変えながら、一歩前進していきたいと思っています。

新生「むかわ町」には、合併により農業、林業、水産業の3つの一次産業が勢揃いすることになります。それぞれが持つ資源をお互いに活かしながら、結びつけることにより、新たな魅力と可能性が生まれていくに違いありません。たとえば山間部の間伐材で生産した木質ペレットを利用し、農業ハウスなどの暖房エネルギーとして農業振興に活用するなど、これまで単独ではできなかった町内循環型の取り組みへの期待も膨らんでいます。

少子高齢化、地方分権の推進、そして行

財政改革と、地方自治体にとっては一段と厳しさが加わる船出となり、これから数多くの困難な課題が立ちはたかると思いますが、合併はただ行財政の足腰を強くするだけがあるわけではありません。行政はもとより各種団体、子どもからお年寄りまで、むかわ町を構成するすべての人々がまちづくりを自分のこととして捉え直し、それぞれの役割と責任を持って参加していただくための格好の機会と捉えることもできます。

新町のテーマは「人と自然が輝く清流と健康のまち」ですが、私どもに課せられた使命は、明日を担う子どもたちが愛着と誇りを持って、いつまでも住み続けられるようなまちにすること。「合併を選択してよかった」と感じてもらえるようなまちをつくり、豊かな川と海と森を、胸を張って次世代へ引き継いでいきたいと思っています。

# あれも、これも、むかがわ町の自慢です。

おいしいものがある。美しい風景がある。笑顔のステキな人もいる。数えだしたらきりがなく、むかがわ町民のお国自慢をご紹介します。



海と山から、旬のごちそう。

## おいしい味覚

自然に恵まれたむかがわ町には、おいしい名産品がいっぱい。淡泊なのに脂がのつている「鵜川ししゃも」を筆頭に、とろけるような甘さの「ぼべつメロン」、柔らかな肉質の「むかわ和牛」など、海の幸から山の幸まで季節の味覚が多彩です。



黄色い花畑が見渡す限り一面に。

## たんぽぽ公園

鵜川橋上流の河川敷は、日本一のたんぽぽ群生地。5月末から6月初めには、6ヘクタールの草原にたんぽぽの花が咲き誇ります。最盛期は、まるで黄色いじゅうたんを敷き詰めたような美しさ。町内はもちろん町外から大勢の家族連れが訪れます。



## 獲れたて、もぎたてがどっさり。ぼぼんた市場

港から直送の魚介類や、収穫したばかりの新鮮野菜が並ぶ「ぼぼんた市場」は、むかわ産の特産品を集めた直売所。農家の手作り味噌や漬け物など加工品も人気です。町内の生産者や加工業者、商業者が管理組合を組織して運営しています。



ぼぼんた市場



四季の館

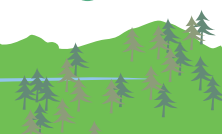
子どもから大人まで楽しめる複合施設。

## 四季の館

「四季の館」は、温泉やプール、図書館、多目的ホール、レストランなどが揃った大規模な複合施設。道の駅としても登録されていてトイレは24時間利用できるほかホテルも併設。デイサービスセンターも兼ね備えて一大交流拠点になっています。



図書館「まなびランド」





あれも、これも、むかわ町の自慢です。

ムックペイ 04



甲子園での入場行進

平成14年、16年と選抜高等学校野球大会に出場した鷓川高校。部員からはプロ野球選手も誕生しました。一生懸命に練習をしながら、高齢者宅の雪かきをしたり、ゴミ拾いをしたりとボランティア活動にも熱心な球児たちを、町民みんなが応援しています。

# 鷓川高校 野球部

甲子園出場で、町の知名度アップに貢献！



むかわ町立穂別博物館

穂別博物館に展示されているのは、昭和52年に発見されたクビナガリュウの化石。約8千万年前の白亜紀に生きていた古代生物で、大昔は穂別が海の底だったことを教えてくれました。町民からは「ホッピー」という愛称で親しまれています。

# クビナガリュウ

化石が歴史を教えてください。



クビナガリュウの実物大全身模型



「田んぼdeファッションショー」では、お年寄りがモデル役に挑戦

# お年寄りがいきいき元気！ 田んぼdeミュージカル 実行委員会

穂別地区の高齢者は映画づくりに夢中です。「田んぼdeミュージカル」、「田んぼdeファッションショー」は、いずれも、60〜80代のお年寄りだけでつくった自主製作映画。テレビや新聞でも紹介され「毎日自治大賞奨励賞」など、数々の賞も受けました。



「田んぼdeミュージカル」のワンシーン



# 花の栽培

むかわの花が全国でひっぱりだこ。

日照時間が長く気候が冷涼なむかわ町は、花づくりにぴったり。トルコギキョウやかすみ草、スターチス、カサブランカなどが栽培されています。なかでも、フリージアとアールストロメリアの2品種は通年出荷。市場でも高い評価を受けています。



# 産業

農林水産業は、むかわ町の基幹産業。  
魅力と活力を大きく育てていきます。

## 広くアピールしたい、農業の魅力

# 農業



長イモの選別作業



通年栽培のアラストロメリア

むかわ町は肥沃な土地に恵まれ、古くから稲作を基幹産業として発展してきました。食味の高い高品質米の産地として知られていますが、現在は野菜や花卉、メロン、肉牛などを取り入れた複合経営が定着しています。なかでも、気候風土の特性をいかした「ほべつメロン」、鷗川地区で通年栽培している花卉は、市場から高く評価されています。また、牧場も数多くあり、特に黒毛和牛は「むかわ和牛」の名前で人気。サラブレッドの生産もさ

かんで、重賞レースを制する名馬も数多く産出しています。近年、残留農薬や産地偽装など食の安全を取り巻く問題が大きく取り上げられています。むかわ町では早くから有機栽培に取り組み、鷗川農協では「遺伝子組み換え作物を作らない宣言」を表明するなど、安心・安全な作物づくりに努めています。







マツカワの稚魚の放流



むかわ町の魚といえば「鵜川ししゃも」。毎年10月下旬になると、商店の店先にはシシャモのすだれ干しがずらりと並びます。鵜川産のものは特に味が良いと人気が高いため、地域ブランドとして商標登録が認可され、他産地との差別化が進んでいます。安定した漁獲量を確保するため、育てる漁業にも力を注いでいます。シシャモとサケは早くからふ化事業に取り組んできたほか、ホッキやホタテの養殖、カレイの王様として知られるマツカワの稚魚の放流なども実施。栽培漁業を推進するためには、まず森や山を守ることが必要だと、漁業者などが中心となって植樹活動も行っています。

# いち早く水産物をブランド化 水産業

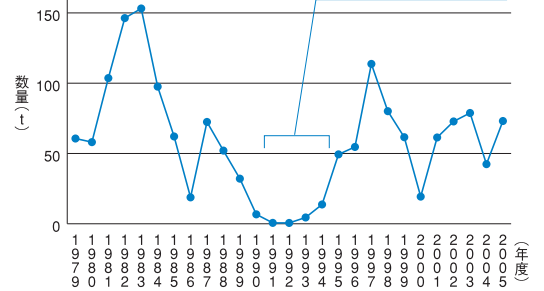


シシャモの水揚げ

## むかわ町シシャモ水揚げ実績

(出典:管内ししゃも漁業振興協議会)

※1991年から1994年までの4年間自主休業。



# 森林の多様な価値を未来へ発信 林業

### column

## 地域の商工業も元気で。

むかわ町は商工業にも活気があります。1979年、道内で初めて自動車テストコースを誘致したのをはじめ、プラスチック工場や医薬品製造工場などが進出しています。商業は個人経営の小規模店舗が大多数ですが、鵜川地区、穂別地区それぞれの商店街では商工会を組織して、スタンプカードをつくらしたり、ピアガーデンを開いたり、魅力的な商店街づくりに力を注いでいます。



地球温暖化が進むにつれ、森林の持つ多面的機能がクローズアップされるようになりました。大気保全や土砂流出防止など大切な機能を担っている森林を、これからも守り育てていくため、むかわ町では穂別苦小牧森林組合が中心となって伐採と植林を永続的に繰り返すシステムづくりを進めています。

なかでも大きな注目を集めているのが、間伐材などを有効活用した木質ペレットの新事業。木材は燃焼時に二酸化炭素を成長の際に既に吸収しているため、地球環境に優しい循環型燃料として期待されています。

むかわ町では、花卉やメロンのハウス栽培の暖房の燃料や、穂別診療所にペレットボイラーの導入を計画中で、地域で積極的に利用することにより、循環型社会の構築をめざします。



# 保健・福祉

地域に密着した医療の整備と  
福祉サービスの充実と向上をめざします。

まちの元気は、一人ひとりの健康から

## 健康づくり

「四季の館」に併設された介護予防センターで行われている「いきいき湯上がりサロン」。たかさんのお年寄りが参加。



住み慣れた地域で、生きがいを持って健康に暮らしたいというのは、町民みんなの願いです。むかわ町では、元気な高齢者づくりのため高齢者の社会参加の機会として高齢者大学をはじめ技術や経験を生かした高齢者事業団活動、健康増進のため温泉などの入浴券交付事業を行っています。健康管理では各種検診事業、食生活改善としてヘルスアップ教室や、親子や高齢者を対象とした手料理教室などに取り組んでいます。

また、ひとり暮らしなどの生

活に不安を持つ高齢者が入居できる住宅型施設として、閉校となった校舎を活用した高齢者生活交流センター「ひだまりの里」を開設しています。



高齢者生活交流センター「ひだまりの里」



「四季の館」内の温水プール



マシンの充実したトレーニングルーム



〈上〉車イスのまま乗り降りできるリフト付福祉車両  
〈下〉健康づくりに利用されている四季の湯



乳幼児健診





育児に不安や孤独を感じる母親が増えています。むかわ町では「子育て支援センター」や「母子通園センター」を通して、母親のさまざまな相談に応じたり、親子で通える集いの広場を開設。子育てを幅広くサポートしています。

また、児童館や小学校では、共働き家庭の子どもに放課後の生活の場を提供する学童保育を実施しています。さらに、子どもの登下校時の見守り活動をはじめ、児童の保護育成、虐待防止への相談体制の充実を図るなど、女性が安心して子どもを生み育てられるような環境づくりを幅広く進めています。

地域社会で子育てをサポート

# 子育て支援



ひかり保育園の運動会



医師不足が叫ばれるなか、医療機関の確保は大きな課題のひとつです。むかわ町の場合、「鶴川厚生病院」と「むかわ町国民健康保険穂別診療所」は、地域医療の拠点として夜間診療や救急医療体制を整え、急患など一次医療にあたっており、また人工透析患者や高齢者などには送迎バスを運行しています。

できる限り住み慣れた地域や家庭で生活できるように在宅サ-

ビスも充実しています。訪問診療や訪問看護、訪問リハビリはもちろん、地域のボランティアが夕食を届ける給配食サービス、ホームヘルパーの派遣なども行っています。また、福祉施設などとも連携しながら疾病治療だけではなく、日常的な健康管理から介護予防まで、医療、保健、福祉、介護が一体となった地域包括ケアを進めています。

# 地域医療

地域に密着した、あたたかな医療を



鶴川厚生病院



むかわ町国民健康保険穂別診療所の完成予想図(平成19年7月完成予定)



# 教育・文化

子どもから大人まで、誰もが  
自らすすんで学べる環境づくりを。

むかわ町には穂別高校と鷗川高校というふたつの道立高校があり、それぞれ特色のある教育を行っています。

穂別高校では都市部の教育環境になじめない生徒をあたたく受け入れ、農業実習やカヌーの川下りなど自然環境をいかした体験学習を行っています。鷗川高校では中高6年間を通して教育を行う連携型中高一貫教育を推進。中学校3年生と高校生がひとつの教室で学ぶ自由講座をはじめ、中高教員がそれぞれ連携校に向いてティーム・ティーチングや出前授業を行っています。中高吹奏楽部の合同演奏会など部活動の連携も多彩で、鷗川高校のブラスバンドは全道大会で金賞を受賞するほどに実力を磨きました。

## 学校教育

教育環境の向上をめざして



鷗川中学校と鷗川高校合同演奏会



穂別高校



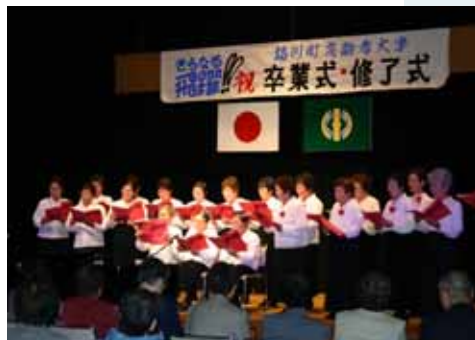
鷗川高校



穂別博物館で行われている化石のレプリカづくり



穂別地区町民文化祭



高齢者大学の卒業式



鷗川・沙流川かわ塾

生涯学習の理念は、だれもが好きな時に好きな場所で楽しく学べること。むかわ町でも、さまざまな学習機会を提供しています。

小中学生対象の「わんぱく広場」では、農業体験をはじめ、昆虫採集や料理教室など多彩な体験メニューを用意。60歳以上が対象の「高齢者大学」や「ことぶき学級」では、パークゴルフ、陶芸、ダンス、書道、民謡など、幅広い教室を開催しています。さらに、

いつでもどこでも学ぶチャンス

## 生涯学習

高校生以上の一般町民を対象にした「楽習塾」では、町民の要望に応じた講座も開設しています。ほかに、穂別博物館では化石のクリーニングやレプリカづくりが体験できるなど、むかわ町ならではの学習チャンスがいっぱい。町民が中心となって毎年開催している「鷗川・沙流川かわ塾」は、子どもたちがカヌーと水生動物調査の楽しさをもつて学ぶ貴重な機会になっています。

健康づくりをバックアップ  
 健康づくりをバックアップ  
 健康づくりをバックアップ

むかわ町のスポーツ活動は「むかわスポーツクラブ」、通称「むっく」を中心に行われています。毎月定期的にスポーツ教室を開いているほか、札幌ドームへの観戦ツアーや親子キャンプなどさまざまなイベントも企画。たくさんの方々が参加しています。町内にはスポーツ施設も数多く、プールやスポーツジムから、野球場、テニスコート、スケートセンター、パークゴルフ場まで、年齢を問わず気軽に運動できる環境が整っています。

スポーツイベントも多彩で、春には有森裕子さんと一緒に走

# スポーツ活動



田浦第2野球場



鵜川運動公園 パークゴルフ場



鵜川スケートセンター

る「アリモリカップ・マラソン大会」、秋には「鵜川ししまもファミリー駅伝大会」を開催。町外からもたくさんの方々が集まります。また、人口が同じくらいの自治体に対戦相手に住民の運動参加率を競う「チャレンジデー」にも毎年参加しています。

鵜川ししまもファミリー駅伝大会



アリモリカップ・マラソン大会



チャレンジデー

## column

### 次代へ伝えたい、貴重な地域文化

むかわ町に伝わる文化や伝統は、大切に未来へと引き継いでいかなければなりません。古くからこの地域に伝わるアイヌ民俗の文化風習もそのひとつ。なかでも毎年10月上旬に行われる「シシャモカムイノミ」は、神々に豊漁を祈願する大切な伝統儀式で、アイヌ文化伝承保存会のメンバーにより継承活動が行われています。

このほか、昭和初期に富山県から伝承された獅子舞や、穂別地区の纏太鼓、鵜川地区のししまも太鼓など、郷土芸能もしっかりと受け継いでいく必要があります。



シシャモカムイノミ



アイヌ文化の伝統・保存活動の拠点「ムベツ館」



穂別開拓時代の住宅を移設した「中村記念館」。国の有形文化財に登録されています。



旧国鉄富内駅では、プラットフォーム、レール、駅舎などが有形文化財に登録されています。



# 生活環境

豊かな自然を未来へ。  
住みよい環境づくりに力を入れます。



防災行政無線の屋外スピーカー

## 万が一に備えて、万全の対策を 防災・防犯

地震や津波、洪水などの災害が発生した場合、なによりも重要なのは正確な情報を住民にスピーディーに伝えること。むかわ町では沿岸地区や鷗川沿いに16カ所の屋外スピーカーを備えたほか、戸別受信機を設置。避難勧告などを迅速に発信できる「防災行政無線」を整備しました。また、地上デジタル放送が受信不可能な穂別地区には光ファイバー網を導入。緊急情報を各戸へ発信できるように工夫しました。

また、犯罪のない安全な地域社会を築くため、地域ぐるみで防犯パトロールを行ったり、防犯灯、街路灯の整備など防犯環境の整備にも努めています。これからも、安心して安全に暮らせるまちにするため、住民の意識高揚を図りながら住みよいまちづくりを推進していきます。

鷗川地区、穂別地区それぞれに子どもたちの防災活動がさかんです。

〈上〉ちびっこ火消し踊り  
〈下〉穂別少年まじ太鼓



緊急情報は戸別受信機を通じて各家庭へ放送されます。

## 物流から生活の足までをカバー 交通アクセス

むかわ町は空の玄関である新千歳空港と、海の玄関である苫小牧フェリーターミナルに近く、利便性に優れた位置にあります。現在、千歳と十勝清水を結ぶ道東自動車道の建設が進められています。東自動車道の建設が進められていますが、平成23年に共用が開始されれば、町内に穂別ICと鷗川IC、ふたつのインターチェンジができることになり、さらに便利になるはず。公共交通機関も充実しています。

日高本線の鷗川駅からJRが利用できるほか、高速バスも運行しています。また、生活の足として活躍しているのが、町内ほぼ全域を網羅しているのが、町内。鷗川地区ではスクールバスと兼用の町営バスが走り、穂別地区では15人乗りのミニバスが診療所や学校、公共施設などを結びながら運行。手を挙げればどこでも乗降ができます。



スクールバスと兼用の町営路線バス



JR鷗川駅



日高自動車道

# 生活空間

自然とともに、豊かに暮らす

街並みの整備にも力を注いでいます。鷗川地区ではシヤマモとたんぼぼをモチーフにしたステンドグラスの街路灯にイチヨウの並木、穂別地区ではクビナガリユウなどをデザインした街路灯にメタセコイヤの街路樹と、それぞれ個性的なストリートが形成されています。春には住民自ら公園に花を植栽したり、冬にはイルミネーションを飾ったりと美化活動もさかんです。

また、高齢化の進行にあわせ、公営住宅もバリアフリーのオール電化住宅を用意したほか、少ない積雪と便利な交通アクセスをセールスポイントにして、宅地分譲も積極的に実施。定年後の移住者も徐々に増えてきています。



ライトアップされた噴水が美しい「ホッピー公園」

オール電化の公営住宅



冬の夜を彩るイルミネーション

豊かな森林や清流・海を守るために

# 自然保護



「マザーズ・フォレスト」の植樹祭



鷗川河口の干潟を守る保護活動

町内を流れる鷗川は、国土交通省の「平成17年河川ランキング」でBOD値による河川平均水質が全国一位にランクインした清流。その河口にある干潟は、シギやチドリなどの渡り鳥が羽を休める休憩地になっています。ところが、浸食によって海岸線が徐々に後退し、面積が減少。貴重な干潟を守ろうと、地域住民が自主的に保護活動を行っています。

海だけではなく、森林の保護の取り組みも活発です。鷗川地区では町民でつくる「むかわ・森・川・海を守り隊」が「お魚殖やす植樹運動」を展開。穂別地区では母なる森づくりをめざす「マザーズ・フォレスト」というイベントで町民植樹祭が行われています。



# まちづくり

住民と行政の連携により  
自主的なまちづくりを推進します。

コミュニティ活動をサポート

## 住民参加

自治体が未来に向け自立したまちとして発展していくためには、まちの主役である住民の積極的な参画が欠かせません。むかわ町では、協働の仕組みとして「地域自治区」を設置。地域代表者から構成される地域協議会を置いて、住民の意見を取り入れながら、まちづくりを進めています。具体的な計画や方針は、町長などと住民が語りあう「町民懇話会」「出前講座」でくわしく説明。情報の共有化、信頼関係づくりにも積極的に取り組んで

います。

また、住民の自主的なコミュニティ活動の支援も忘れません。穂別地区富内で行われている「ほべつ銀河鉄道の里づくり」をはじめ、実行委員会形式で行われている「流送まつり」や「たんぼほフェスティバル」などのイベントも町ぐるみでサポートしています。



穂別流送まつり(7月下旬)



たんぼほフェスティバル(5月下旬)



地域協議会



住民が手入れをしている花壇「涙ぐむ眼」

自立したまちとして発展するために

## 行財政改革



穂別総合支所



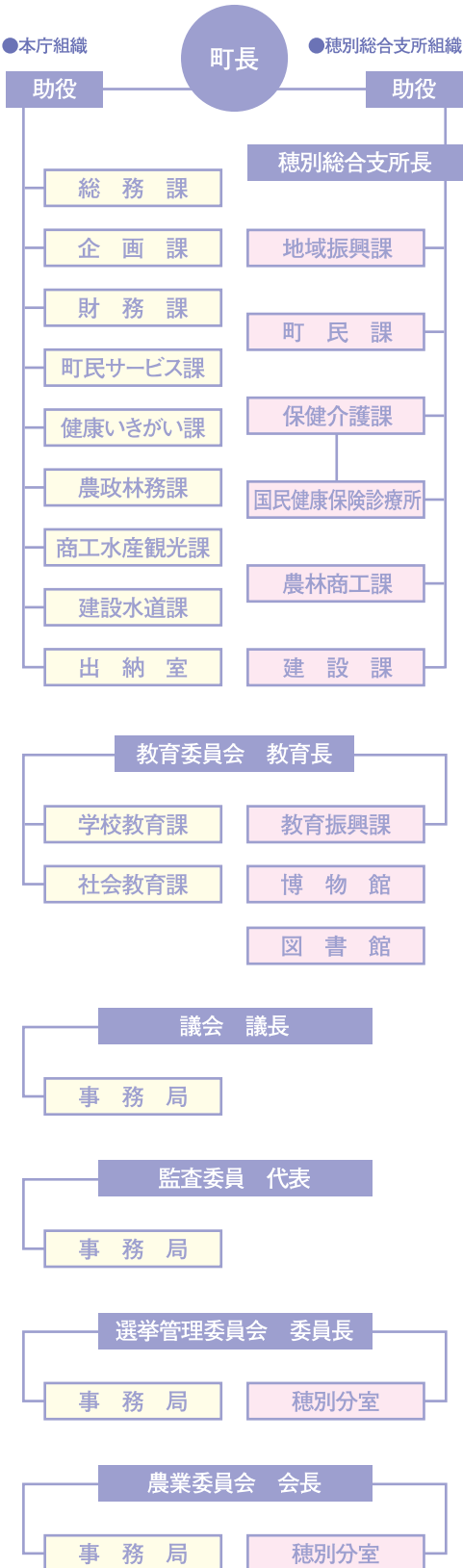
むかわ町役場本庁

合併したからといって行財政改革に終えんはありません。地方分権、少子高齢化など地方自治の新时代を迎えた現在、今まさに新生むかわ町にふさわしい分権型社会のシステムを構築していく必要があります。そのために町の仕事の見直しや行政サービスの向上、財政基盤の確立などスリムで堅実な行政運営を進め個性ある豊かな町の形成を推進しています。



行政改革推進委員会

●むかわ町の組織図



広報むかわ



役場窓口



テレビ会議システム

むかわ町では、鶴川地区に本庁、穂別地区に総合支所を設置。必要な窓口サービスを身近な場所で受けられるように配慮したほか、合併を機に戸籍をデータ化して事務処理のスピードアップも実現しました。また、両地区を光ファイバーで結ぶテレビ会議システムも導入。離れた場所でもモニターとマイクを通して会議ができるように工夫しました。まちづくりを審議するむかわ町議会は、住民から選ばれた20名の議員で構成し、年4回の定例議会を行います。

議会の内容は「議会たより」でお知らせしています。まちの情報はホームページや「広報むかわ」などを通して発信。広く住民に周知しています。



〈左から〉助役(本庁担当)／富士隆久  
町長／山口憲造  
助役(総合支所担当)／横山宏史



教育長／木澤省司



〈左から〉副議長／山崎真照  
議会議長／竹中喜之

まちづくりに、住民の声を  
**役場・議会**



# スペシャル・インタビュー

リレハンメル(1994)、ソルトレークシティ(2002)、トリノ(2006)。

これまで3度のオリンピックに出場した

スピードスケートの田畑真紀選手。

トリノ大会では日本選手最多の5種目8レースに出場し、

新種目パシュートで4位入賞を果たしました。

むかわ町の二宮で生まれ育った田畑選手に、

ふるさとに対する想いを聞きました。

自転車やインライン  
スケートでのトレー  
ニングも



毎年夏には、むかわ町で合宿するのが恒例



## 私を常に支えてくれたのは、ふるさと。 感謝の気持ちでいっぱいです。

町の氷上大会が、  
私の原点

私がスピードスケートを始めたのは二宮小学校1年のときです。全校生徒が35人の小さな学校でしたが、冬になると父母が校庭に水をまいてスケートリンクをつくってくれるんです。手作りの200メートルのリンクで、子どもたちはみんな滑る。たまたまスケートをする環境が揃っていたんですね。

同級生はたった5人。そのうちの一人がライバルで、負けたくないのがんばるうちに町の氷上大会で優勝しました。その時にもらった大きな金メダルがうれしくてうれしくて…。また来年もメダルが欲しいと。いま思えば、すべてはそこから始まっているのかもしれない。

それでも、小学校時代は弱くて苦小牧地区で6番とか7番しかとれなかったんです。だからスケートを本格的にやりたいとなかなか親に言い出せなくて…。それが、6年生の時の大会で2回続けて優勝。鷗川中学校からスケート部に入ることができました。中学に入ると、苦小牧地区内に1年上の強い先輩がいて、

その人に勝ちたい一心で練習していたら、2年と3年の中体連では全国優勝。そのまま駒大苫小牧へと進みました。

スピードスケートの  
おもしろさ

実は中学へあがる前、スケートにしようかバレーボールにしようか迷ったことがあったんです。でも、その時に、子ども心に世界を視野に入れてやるならスケートだと思ったんです。というのも、早来出身の橋本聖子さんという身近な先輩がいたから。実際に世界の大会へ出るようになってからも、小学6年の時のその気持ちをも何度も思い返しました。

小さい頃は一生懸命な自分が好きだったように思いますが、今は本当にスピードスケートが好き。辞めたいと思ったこともないんです。たとえ、きつい練習でも、つらいと感じるなら、それは自分が弱いから。強くなるためにはどうしたらいいんだろうと考えるのみです。

スケートはきつと、簡単にはいかなところがおもしろいんですね。ちよつとしたポジショ



### こんなにいます! むかわ町出身のオリンピック選手。

- 清川卓さん(ボブスレー2人乗り)  
トリノ冬季五輪出場
- 椿文子さん(ショートトラック)  
長野冬季五輪出場
- 長尾(旧姓:関) ナツエさん(スピードスケート・自転車)  
カルガリー冬季五輪・ソウル夏季五輪出場
- 鈴木靖さん(スピードスケート)  
サラエボ冬季五輪出場



●スピードスケート選手

# 田畑 真紀さん

maki tabata

ンの違いでまったくタイムが変わってしまう。すごく研ぎすまされないといいタイムが出ない。私の専門種目は1500メートルですが、短距離の瞬発力と長距離の持久力のどちらも必要なので、両方のトレーニングを組み合わせ、自分なりに練習を考えて取り組んでいます。

## 小さなまちの 大きな応援

トリノオリンピックの時は、シューズに鷗川のシンボル、たんぼの刺繍を入れました。私が2003年に富士急を辞めてフリーになったとき、地元の方々が支えてくれたことに対する感謝の思いでした。スポンサー収入もなく細々と活動していた私を、1000人以上の後援会のみなさんが応援してくださり、町を歩くとたび「真紀ちゃん、がんばって」と声をかけてくれたことに、とても励まされました。本当はししゃもの刺繍も入れたかったくらいです(笑)。

毎年6月と9月に鷗川で合宿をしているのも、応援してくれる方々に囲まれてトレーニングがしたいから。スケート少年団

の子どもたちと一緒に練習することもあるんですよ。今回、鷗川と穂別が合併して「むかわ町」になりましたが、小さいまちならではのあったかさはずっと変わらずにいてほしい。私も子どもの頃に穂別のリンクへ滑りに行ったことがあったし、スポーツのイベントなどを通して、両地区が触れ合う機会が増えたらいいですね。これからも、みんながお互いの顔を知っていて、何かあったら助け合えるような、そんなふるさとであってほしいと思います。



田畑真紀

たばた・まき／1974年、鷗川地区二宮生まれ。駒大苫小牧高校卒業後、富士急(山梨県)に所属して競技生活をスタート。3度のオリンピックに出場し、長きにわたり日本長距離のエースとして活躍している。女子1500m・3000m・5000m・中総合得点・オールラウンド総合得点の現日本記録保持者。現在、ダイチ(富山県)に所属し、2010年のバンクーバーをめざして活動中。両親と姉、妹はむかわ町在住。



# むかわ町の将来像

むかわ町では合併後10年間(平成18年度から平成27年度まで)を期間として、まちづくり計画を策定しました。5つの基本方針と分野別目標を掲げ、住民と行政がひとつになり、清流むかわを郷土の財産として、新しい自治のかたちを確立していきます。

## 将来像

= 人と自然が輝く  
清流と健康のまち

### [ まちづくりの基本方針 ]

- **自立・ふれあい交流型のまちづくり**  
地域の独自性を残しながらふれあい交流を促進。自立・ふれあい交流型のまちづくりを推進します。
- **地域の特長をのばすまちづくり**  
自然・農林漁業・歴史文化など各地域の特長を活かし、それぞれの活力を高めます。
- **整備と活用の調和のとれたまちづくり**  
道路や産業基盤など必要な基盤の整備とともに、既にある地域資源を有効活用していきます。
- **時代の潮流を見据えた総合的なまちづくり**  
産業振興や環境保全、少子・高齢化対策、高度情報化などのまちづくり施策を総合的に推進します。
- **参加と協働による住民自治のまちづくり**  
住民自らが地域の課題に主体的に取り組む、参加と協働による住民自治のまちづくりを推進します。

### [ 分野別目標 ]

- **自立・連携し、共に創るまちづくり**
- **ぬくもりのある、健やかな福祉のまちづくり**
- **快適な環境をもつ、うるおいのあるまちづくり**
- **魅力あふれる、活力とにぎわいのあるまちづくり**
- **夢を育む、学び楽しむ文化のまちづくり**

# 〔地域別目標〕

## 森林・清流ゾーン

環境の保全を図りながら、森林機能を重視した多面的な利用を進めます。



## 農業ゾーン

生産性の向上はもちろん、農産品の開発・販売、農業体験交流など、活力ある農村づくりをめざします。



## 市街地ゾーン

都市的機能を充実させ、安全でにぎわいのある市街地づくりを進めます。



## 海浜ゾーン

資源管理型の栽培漁業の振興や、海浜機能を活かした交流機会の創出に取り組みます。



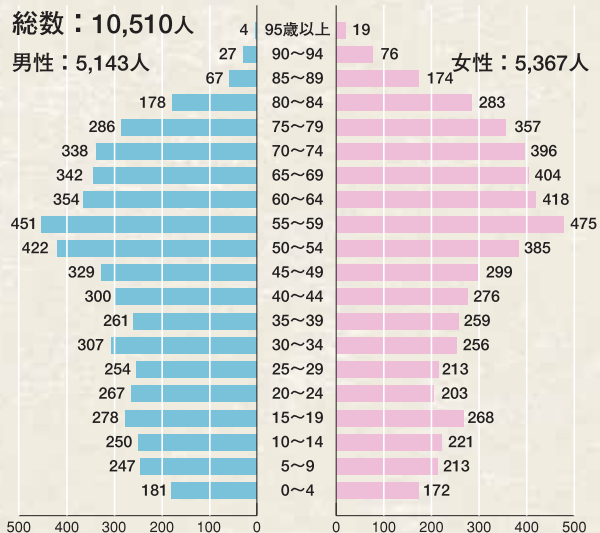


# むかわ町の基本データ

資料1

## 年齢別人口

(資料：平成18年3月31日 住民基本台帳)



## 世帯数および人口の推移

(資料：国勢調査)

### ● 鶴川地区

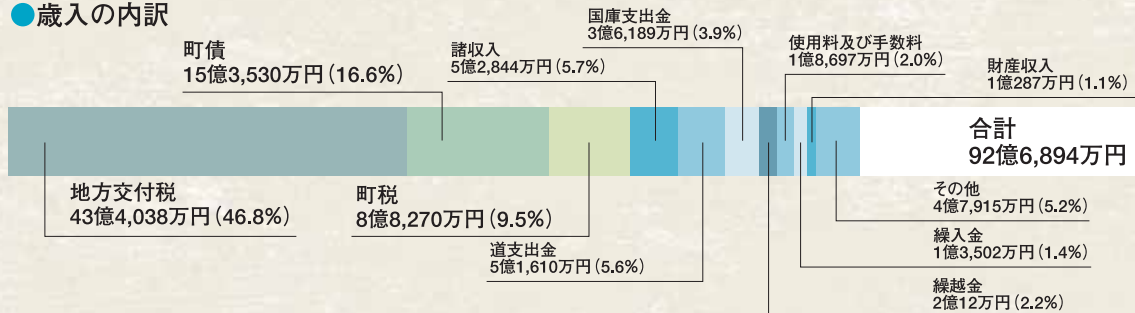
年	世帯数	総人口
平成 7	2,786	7,853
12	2,744	7,232
17	2,698	6,765

### ● 穂別地区

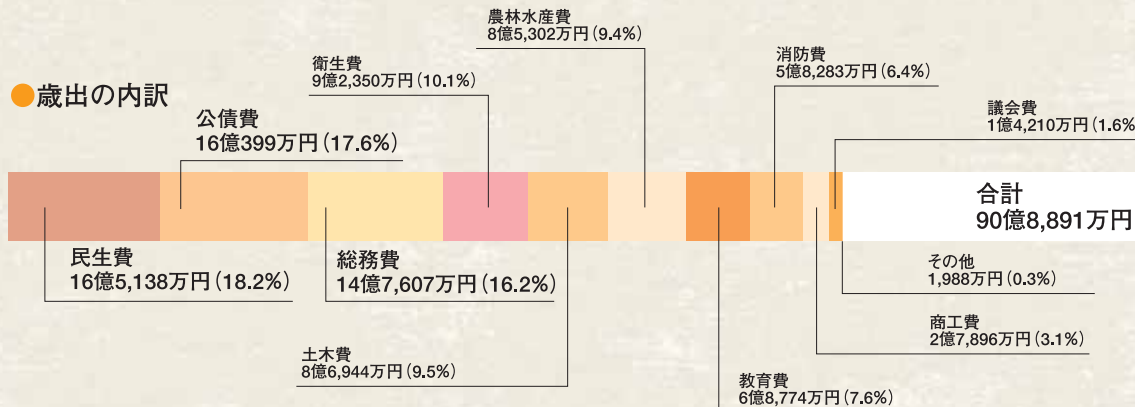
年	世帯数	総人口
平成 7	1,557	4,114
12	1,557	3,965
17	1,656	3,837

## 平成17年度決算 / 歳入・歳出の内訳

### ● 歳入の内訳

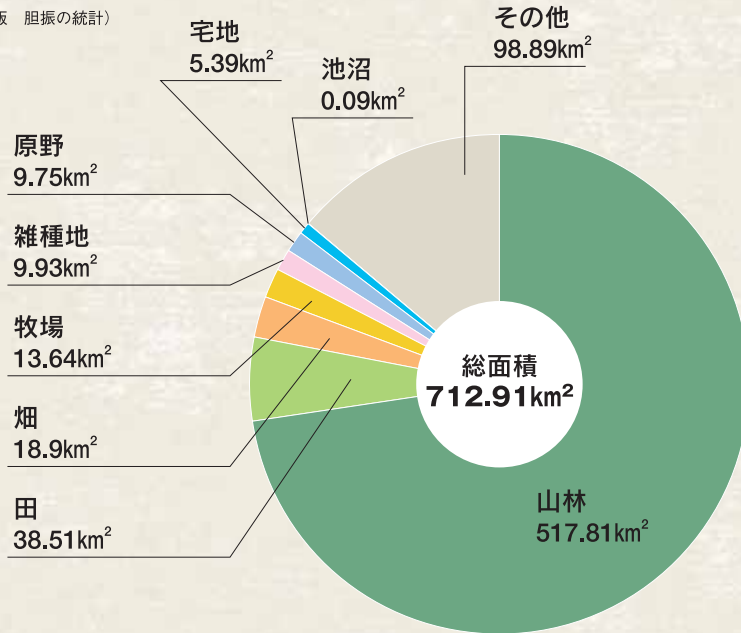


### ● 歳出の内訳



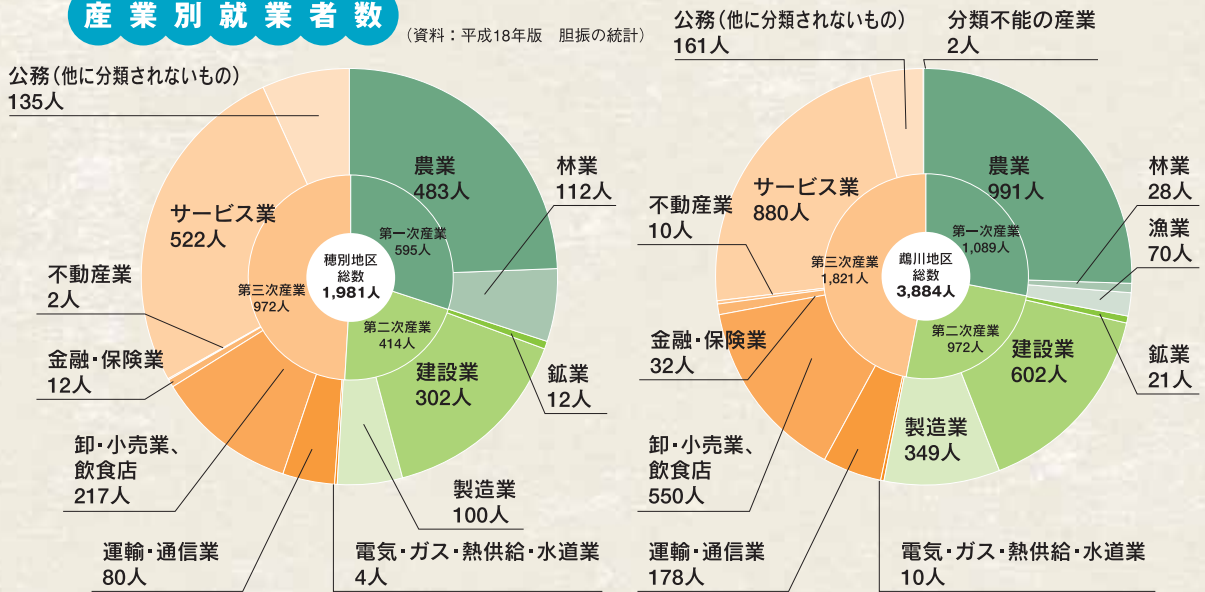
### 地目別面積

(資料：平成18年版 胆振の統計)



### 産業別就業者数

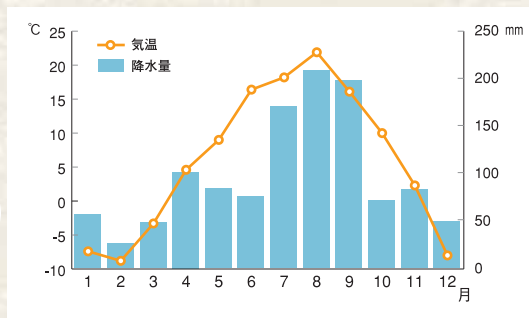
(資料：平成18年版 胆振の統計)



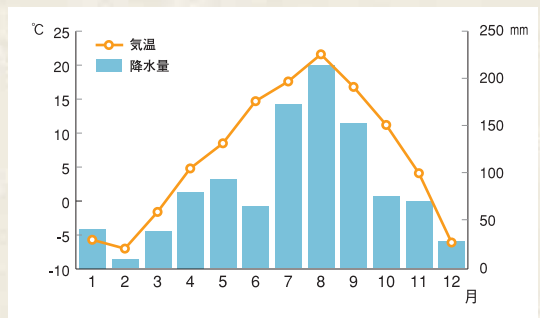
### 月別気温・降水量

(資料：平成18年版 胆振の統計)

●穂別地区



●鶴川地区



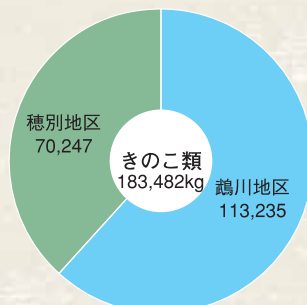
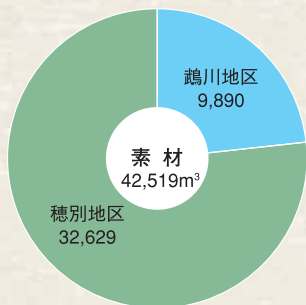


# むかわ町の基本データ

資料2

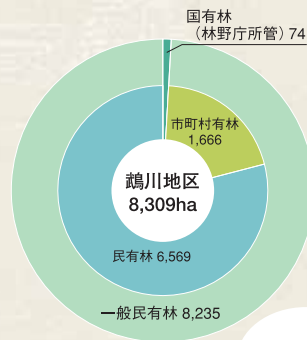
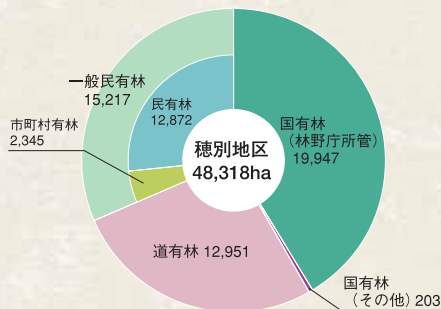
## 林業生産量

(資料：平成18年版 胆振の統計)



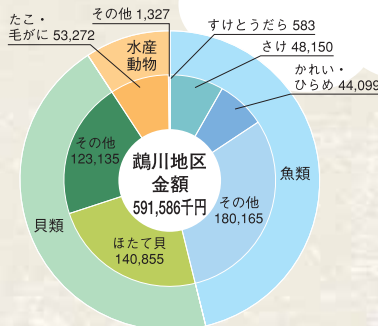
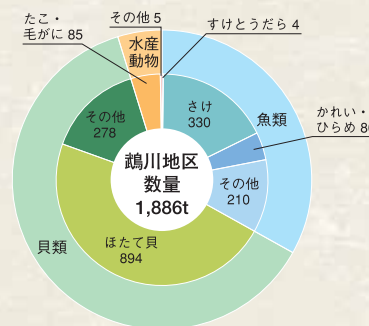
## 森林面積調

(資料：平成18年版 胆振の統計)



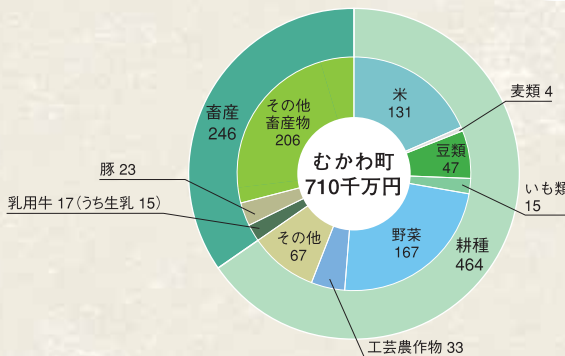
## 魚種別生産高

(資料：平成18年版 胆振の統計)



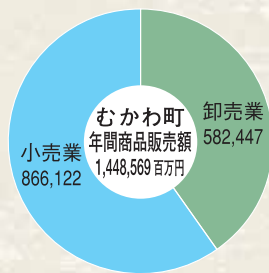
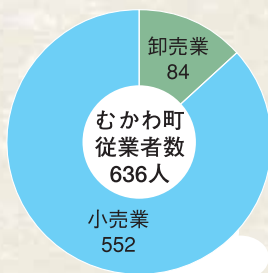
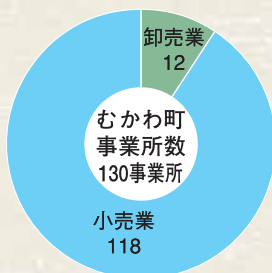
## 農業産出額

(資料：平成16年 生産農業所得統計)



## 卸売業・小売業別事業所数・従業者数・年間商品販売額

(資料：平成18年版 胆振の統計)



# むかわ町のあゆみ

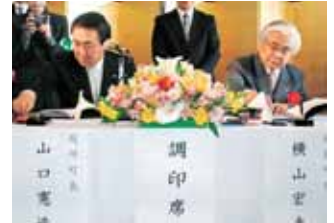
- 2004(平成16)年 ● 鶴川町・穂別町合併協議会を設置する
- 2005(平成17)年 ● 合併の是非を問う住民投票を実施する
- 2006(平成18)年
  - 3月 ● 27日新「むかわ町」が誕生(鶴川町と穂別町の合併)
  - 4月
    - 戸籍総合システム稼働(戸籍の電算化)
    - 防災行政無線稼働
    - テレビ会議システム稼働
    - 広報誌発行(創刊号)
    - むかわ町社会福祉協議会スタート
    - むかわスポーツクラブ「むーブ」始動
    - 町長・町議会議員選挙が行われ、初代町長に山口憲造  
町議会議員に20名が当選(鶴川選挙区11名、穂別選挙区9名)
  - 5月
    - たんぼぼフェスティバル開催
    - Arimoriカップマラソン開催
    - むかわ町として初めて「チャレンジデー」に参加し、鹿児島県知覧町と対戦  
(参加率は65・5%で目標を達成したが、81・2%の知覧町に敗れる)
  - 6月
    - 「北海道・川の日ワークショップinむかわ」開催
    - むかわ町議会第1回定例会開催(町長施政方針表明)
  - 7月
    - むかわ町行政改革推進本部設置
    - むかわ町農業委員会委員選挙(鶴川地区11名・穂別地区8名)
    - むかわ町農業委員会第1回開催
    - むかわ町とむかわ建設協会が「災害時協力体制に関する実施協定」締結
    - 穂別流送まつり開催
    - 鶴川・沙流川かわ塾開催
  - 8月
    - 田浦第2野球場オープニングセレモニー
    - 鶴川沖にカレイの王様マツカワ(王鰈)の稚魚3万3千匹を放流
    - むかわ町行政改革推進委員会設立、第1回協議会開催
    - 停滞前線による大雨災害で、対策本部を設置し避難勧告発動  
(約18億3,700万円の被災)
  - 9月 ● むかわ町道立高等学校対策協議会設立(鶴川高校・穂別高校の存続活動)
  - 11月 ● 町民懇話会開催(11会場)



むかわ町長初登庁



何度も真剣に話し合われた合併協議会の風景



鶴川町、穂別町合併調印式



広報誌(創刊号)



北海道・川の日ワークショップinむかわ



むかわ町長による災害視察

